

# 医療センターニュース

編集：三重県立総合医療センター広報紙編集委員会

<http://www.mie-gmc.jp/>

〒510-8561 四日市市大字日永5450-132 TEL (059) 345-2321 (代表)

E-mail: [sogohos@mie-gmc.jp](mailto:sogohos@mie-gmc.jp)

## 熊本地震災害への支援活動について



4月14日及び16日に発生した熊本地震の災害支援を行うため、三重県からも医療救護班が現地へ派遣されていますが、当センターからも第三次医療救護班としての派遣決定を受け、5月2日から6日にかけて熊本県阿蘇地域での支援活動を行いました。

当センターからは、日頃からDMAT（災害派遣医療チーム）隊員として登録し、技能維持研修等を受けた職員を中心に、医師2名、看護師2名、薬剤師1名、診療放射線技師1名の6名のチームを編成し、現地到着後、3日から阿蘇医療センター内の対策本部での支援業務に従事しました。

看護師2名は、主に阿蘇医療センター内の病棟看護業務に従事し、慢性期・回復期病棟の比較的病状の落ち着いた患者の看護を行いました。

また、看護師以外の職員は、対策本部内での情報整理や外部との連絡調整等の事務作業に従事し、結果的に医療救護業務を行うことはありませんでした。

しかし、現地では、派遣期間中も余震が継続して起こっており、二次災害発生の可能性を考慮すれば、いつでも現場に急行できる各職種の医療従事者の派遣が望ましいと感じました。



今回の災害派遣では、熊本県や各地域の対策本部、各チームの指揮命令系統がしっかりと確立され、情報共有も十分行われていたため、特に大きな障害もなく業務が遂行できたと感じています。

災害時の体制管理や情報共有の重要性を、改めて実感させられた派遣となりました。

### もくじ

熊本地震災害への支援活動について……………1	薬の飲み合わせ……………3
乳腺外来の紹介……………2	当院の協力病院（連携医療機関）紹介 医療法人社団主体会 主体会病院…………4
食事のギモン箱 vol.2……………3	

# 乳腺外科の紹介

乳腺外科 木村 弘子



当科では主に、乳癌検診で精査が必要となった方、乳房に症状のある方、他医療機関からのご紹介の方などに、詳しい検査や治療を行っています。

乳房には乳癌以外にも様々な良性の病気がありますので、何か症状に気づいた時や検診で精査が必要と言われた時、一人で不安を抱え込まずに、一度受診に来てください。受診当日に可能な限り行える検査を受けていただけます。(別図参照)

ピンクリボンアドバイザーもいますので、お気軽にご相談ください。

当科では、症状や治療方針などについてすべて患者さんにお伝えし、理解していただいた上で、患者さん自身に自己決定していただけるような説明を心がけています。

また、乳癌術後のリンパ浮腫や化学療法による副作用のケアなども、専門の外来担当看護師がご相談に応じ、指導にあたっております。

検査・治療が辛い時に支えになることができる温かなチームを目指していますので、心配なことや不安なこと等も相談してください。



## 当院での診断の流れ

- 乳癌検診の二次精査
- 症状がある
- 他医療機関からのご紹介

マンモグラフィ

エコー

当院で行います

しこりの良悪鑑別診断  
(穿刺吸引細胞診、針生検)

※結果は後日になります

MRI

予約制です

マンモトーム生検

## 県立総合医療センターの基本理念・基本方針

### 基本理念

- 1 救命救急、高度、特殊医療等を提供することにより、県の医療水準の向上に貢献します。
- 2 安全・安心で互いにささえあう社会の実現に向けて医療面から貢献します。

### 基本方針

- 1 患者の皆様の権利を尊重し、信頼と満足の得られるチーム医療を提供します。
- 2 県の基幹病院として医療水準の向上に努めるとともに、医療人材の育成に貢献します。
- 3 県内医療機関との連携を強化し、地域医療の充実に努めます。
- 4 職場環境を改善し、職員のモチベーションの向上に努めます。
- 5 責任と権限を明確にした自律的・自主的な経営を行います。

栄養成分表示は、すべての食品に表示するように義務付けられてはいません。ただし、「カルシウム入り」「カロリーオフ」などの表示（強調表示）がある食品や栄養機能食品には、必ず栄養成分表示をすることになっています。食事のカロリーや塩分を気にされる方は多いと思いますが、栄養成分表示の意味を正しく理解出来ていますか？数字のマジックに惑わされないようにしましょう。

### 栄養成分表示を見るポイント

1 100g当たりなのか、1個分当たりなのか、重量を比較しましょう。実際に食べる量で比較するようにしましょう。

**例1** 成分表示は1個あたりなのに、2個入り。一袋全部食べたら実際は2倍のカロリーや塩分を摂っています。

**例2** 1本500mlの飲料の成分表示が100mlあたりになっている。1本飲んだら実際は5倍のカロリーや塩分を摂っています。

2 ナトリウム＝食塩ではありません。ナトリウム量を食塩量と間違えないように気をつけてください。

**ナトリウム量を食塩量に換算する方法**  
ナトリウム(mg)×2.54÷1000＝食塩(g)



3 「ゼロ」と表示されていても「ゼロ」ではありません。

**例1** カロリーの場合、100g（または100ml）で5kcal未満の場合に「0」と表示できます。つまり、500mlのペットボトルのジュースにすると約25kcalとなり、全くの「0」ではないのです。

## 薬の飲み合わせ



薬は病気を治すために必要なものですが、複数の薬を服用した場合に、必要以上に強く効いたり、反対に効きにくくなったりすることがあります。これを薬の「飲み合わせ（相互作用）」と言います。組み合わせによっては、体調を崩すこともあったり、薬が効かずに治療の効果がなくなったりすることもあるので、注意が必要です。

医療用医薬品に限らず、漢方薬やハーブ、サプリメントでも相互作用が起こることが知られています。麻黄という成分を含む風邪や咳止めに用いられる漢方薬、ハッピーハーブとして売られているセイヨウオトギリソウ、ダイエットサプリメントとして宣伝されているフォルスコリンなどの併用で、狭心症や心筋梗塞を起こした事例も報告されています。

ご自身でできる薬の飲み合わせの予防策として、次のような方法を知っておきましょう。

### 1 服用している薬について知る

定期的に薬を服用している方は、一緒に飲んではいけない薬の種類を医師から聞いておきましょう。市販薬やサプリメントの注意点を確認しておくことも大切です。

### 2 「お薬手帳」を活用する

市中の薬局で「お薬手帳」を受け取り、ご自身が服用されている薬を記録することも良い方法です。他の医療機関を受診する場合でも、「お薬手帳」を持参すれば服用中の薬がすぐにわかります。使用中のサプリメントなども合わせて記録しておくことで便利です。

### 3 服用している薬を告げる

他の医療機関を受診する場合は、服用中の薬について必ず医師に告げるようにしましょう。「お薬手帳」がなく、薬の名前を覚えていない時は、薬の実物を持っていくことで対応ができます。



# 当院の協力病院（連携医療機関）紹介 第24回

医療法人社団主体会 主体会病院

院長 川村 直人



## 診療科目

内科、神経内科、消化器科、循環器科、外科、整形外科、皮膚科、放射線科、リハビリテーション科

## 外来受付時間

8:00	月	火	水	木	金	土	日
16:00	○	○	○	○	○	※1	△

■他に、月・火曜日（整形外科）  
16:00～18:00まで

※1 土曜日は、8:00～12:00まで

## 休診日

■土曜日午後、日曜日、祝祭日、年末年始

## 所在地

〒510-0823  
四日市市城北町8-1  
TEL 059-354-1771



当院は平成17年11月に現在の地に新しく移転しました。患者様主体の医療を行うべく、3.0テスラMRIなど最新の画像診断装置や69床の人工透析センターなどの充実の医療設備ととも



左から伊藤MSW、青山MSW、川村院長、堀内MSW、小林MSW

に、内科・整形外科の急性期治療や骨折の手術などを行う一般病棟45床、回復期リハビリテーション病棟53床、重度の障害を持つ方の療養のための障害者病棟60床、継続的な医療的ケアを要する方のための医療療養型病棟38床及び介護療養型医療施設32床の合計228床を有しており、急性期から慢性期までの医療を提供しております。

特にリハビリテーションにおきましては、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の専門スタッフが総勢70名以上在籍しており、脳卒中や骨折後の回復期リハビリをはじめ、外来リハビリではスポーツリハビリ、透析患者や障害を持った小児へのリハビリにも力を入れております。また、介護保険による訪問リハビリや送迎付の通所リハビリも行っておりますので急性期から維持期に至るまで対応が可能となっています。

近年医療機関の役割分担はさらに進んでおり、急性期医療機関は高度な急性期治療に特化してきております。当院におきましては一般病棟から回復期リハビリテーション病棟、療養型病棟、透析センターといった多様な病院機能を活かし、県立総合医療センターをはじめ地域の急性期医療機関において専門的治療を受けた後のリハビリテーションや療養など、新たな生活に踏み出すためのステップとして充実した医療を提供できると考えております。

## 地域医療機関の先生方へ

### 救急外来への患者さんの紹介についてのお願い

救急外来へご紹介いただく患者さんの状態は、一刻を争うことが多々あります。

正確な情報が必要となりますので、地域連携課を通さずに、**代表電話(059-345-2321)**を通して、救急外来担当医師と直接お話をさせていただきますようよろしくお願いいたします。